



史跡 みつじょうこふん 三ッ城古墳



東広島市教育委員会

史跡 三ッ城古墳の概要

三ッ城古墳群は、南の八幡山からのびる丘陵の先端を利用して造られた3基の古墳からなる古墳群です。

これらは、昭和57（1982）年6月3日に史跡に指定され、平成2（1990）年度から平成5（1993）年度にかけて、保存と復元のための工事が実施され、現在は公園として整備されています。

●三ッ城第1号古墳

第1号古墳は、鍵穴の形をした前方後円墳で、全長約92m、後円部の直径約62m、高さ約13m、前方部先端の幅約66mの大きさです。これは広島県内で、最大の古墳です。

墳丘は3段に築かれていて、それぞれの段の上には、円筒埴輪や朝顔形埴輪が立てならべられています。

円筒埴輪や朝顔形埴輪のほかに、前方部に鶏や水鳥、盾、韁、冑など形像埴輪が立てられ、後円部では、家形埴輪が置かれています。このほか衣蓋形埴輪（古墳時代の羽根飾りのついた日傘をモデルにしたもの）も、各所に立てられ、古墳全体では、約1800本余りの埴輪が使われています。

古墳の斜面は、石（葺石）で覆われ、埴輪とともに古墳を飾っています。

古墳の左右のくびれ部には、祭壇と考えられる四角いかたちの造出がそれぞれあります。

また、古墳を取り巻くように、深さ約1m前後の周溝（空堀）がめぐっています。

この古墳は、古代の安芸の國の大豪族の墓と考えられ、5世紀の前半頃に築造されたようです。



